2008年1月16日（水）　山陽新聞　夕刊

山陽新聞

備中松山藩主と玉島（倉敷）の関係紹介

高梁会議所小冊子発刊

歴史的関係が深い高梁市と倉敷市玉島地区の一体的な広域観光事業を進めている高梁商工会議所は、臼井洋輔・吉備国際大教授（文化財情報学）の監修による小冊子「松山藩主水谷（みずのや）勝隆と玉島経営」を発刊した。

勝隆は一六四二年、常陸国下館から備中松山藩へ移封。同藩の飛び地の玉島と高梁を結ぶ高瀬舟航路、外港となる玉島港や新田開発などの大規模土木工事を次々に手掛けた。また、高瀬舟の荷物を高梁で積み替えさせ、税を徴収する「継舟（つぎぶね）制」などによって、公称五万石の同藩に実質八万石以上といわれる経済的発展をもたらした。

臼井教授はこうした勝隆の治世を「時代の一歩先を行くインフラ整備や流通の手法などにより、トータルで藩財政が健全になる基盤づくりを進めた」と評価。また、当時の高梁の発展は、備北の特産品集散地である新田（つぎだ）見、港として藩外への窓口となった玉島との連合によるもの―と分析している。

同会議所が二〇〇七年度、経済産業省の「地域資源∞全国展開プロジェクト」採択を受けて進めている城下町高梁・高瀬舟再発見事業の一環。A5判、三十七ページ。四百部作製し、希望者に無料で配布している。問い合わせは同会議所総務課（0866㉒2091）。

（神辺英明）

高梁商工会議所が発刊した「松山藩主水谷勝隆と玉島経営」